



「奇跡の一本松」復元完成式 ライトアップされ復興見守る

2013.7.3 11:46

東日本大震災の津波に耐えながらも枯死した岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」の保存作業が完了し、3日、記念式典が現地で開かれた。高さ約27メートルの一本松は多くの人に希望を与えてきた復興のシンボル。この日から、鎮魂のため1年間、夜間にライトアップされる。

式典には、関係者や地元住民ら100人近くが出席。戸羽太市長が「津波で唯一残った一本松は生きる希望となった。復元した今は科学技術を世界に伝えるものとして震災遺構の中心となる」とあいさつした。

「奇跡の一本松」は景勝地「高田松原」の約7万本の中で唯一残ったが、海水の影響で枯死した。レプリカで復元され、3月に記念式典を開催する予定だったが、「以前と姿が違う」という指摘を受け、枝の取り付け部分の角度などを調整するなどしていた。復元に必要な費用約1億5千万円は先月末までに目標額を超える寄付が集まっている。

復元された一本松を眺めていた山形県新庄市の阿部栄さん（88）は「震災後から何度も足を運んで、今まで松を見てきた。ほぼ元に戻ったようでよかった」と喜びをかみしめた。

© 2013 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

© 2013 Microsoft |  Microsoft